

令和6年度 厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
分担研究報告書

〈就労支援アプリ〉試用結果の活用

研究分担者 川口孝泰 医療創生大学
研究代表者 丸谷美紀 国立保健医療科学院

研究要旨

本研究の目的は、障害者本人の状態の波と支援環境を突合させて経過をモニタリングするための〈就労支援アプリ〉を試用し、アプリ試用中の行動・心身・環境の値の変動を検討し、今後のアプリ活用方法への示唆を得ることである。

方法は、試作品を、就労移行支援事業者等で1月程度試用し、アプリ試用中の行動・心身・環境の値の変動を検討した。1月以上の継続記入が確認された17名のうち、行動・心身・環境3つの大項目のデータを満たした10名に対して3つの大項目の変化について検討をした。

結果として、3名はアプリ試用中に行動・心身の値に上昇が見られ、環境は安定していた。他の7名は、行動・心身の値に変動が続く者、行動・心身の値が徐々に低下する者が見られ、環境の値は変化が見られなかった。

本アプリの試用者は心身の状態の変動が大きい方を対象としており、可視化された結果を、障害者本人と支援者が協働で活用していくスキルが求められる。入力項目の妥当性、一定期間の行動・心身・環境の変化を障害者本人と支援者が共に確認し、本人や環境の調整など、支援にフィードバックするプロセスが重要であり、そこにこそ、アプリを活用しながら人が人を支援していく意味が込められていると考える。

A. 研究目的

本研究では、既存の障害者就労支援の研究成果を生かしながら、それらのアセスメントツールを補完ツールとして活用しながら、今日の情報通信技術を生かした継続的なアセスメント（モニタリング）を可能とする手段としてアプリケーションの開発を目指している。

本研究の目的は、障害者本人の状態の波と支援環境を突合させて経過をモニタリングするための〈就労支援アプリ〉を試用し、アプ

リ試用中の行動・心身・環境の値の変動を検討し、今後のアプリ活用方法への示唆を得ることである。

B. 研究方法

1) 研究期間：令和6年7月－10月のうち、任意の30日間程度。

2) 対象・協力依頼方法

令和5年度の調査（NIPH－IBRA#23013）でアプリ試用を希望した、就労移行支援事業者、障害者就業・生活支援センターの支援者に、

入力を依頼した。アプリケーションの項目は、大きく「日常生活（日々の行動）」「心身の健康（気持ちや心身の状態）」「生活環境（周りの状況）」の3つに大別し、各アイテムのカテゴリおよび質問内容（5段階評価）は表1のとおりである。

3) 調査方法

アプリ入力データを出力し、時系列にグラフとして示し、値の変動を検討した。

（倫理面への配慮）国立保健医療科学院倫理審査委員会の承認を得た（承認番号【NIPH-IBRA #24004】）。

研究協力は任意であり、途中辞退しても不利益は生じない。心身の状態が優れずアプリ入力が困難な際は、入力する必要ないことなど、文書を用いて説明した。

C. 研究結果 及び D. 考察

1) 分析対象

実際に複数日の継続記入が確認できたのは48名であった。そのなかで、1月以上の継続記入が確認されたのは17名、さらに3つの大項目のデータを満たしたものは10名であった。この10名に対して3つの大項目を代表としたカテゴリーを取り上げ、その変化について検討を加え、アプリケーションの有効性の評価を行った。

2) 分析結果

結果の図は、記入時ごとの5段階評価の変化を時系列で表したものである。表中には変化の状況を可視化するために近似直線を記入した。ちなみに、評価は5段階評価で記入してもらい、質問項目ごとの「1」の評価は最も悪い状況、「5」は良い状況であり、近似直線の

傾きが右上がりの場合には良い方向に向かっていると評価できる。

①図1は、ケース71の対象データである。

「日々の行動」のなかで睡眠が十分にとれていない状況となっている。データの変化は日によって上下しており、その傾向は「気持ちや身体」の状況の変化にも及んでいると思われる。「周りの状況」のなかで、家族の理解が得られていることに救われているとも考えられる。

②図2. ケース81は、全体的に近似直線から下降傾向である。とくに「日々の行動」の変化は下降傾向が強く、その原因として日常生活における睡眠の悩み、金銭管理の悩みが後半に生じたと予見できる。とくに「心身の健康」における気持ちや落ち着きなどの変化は、週ごとのアップダウンが影響しているように思える。環境面での変化はほとんど見られていない。

③図3. ケース83は、「日常生活」での日々の行動がアプリを開始してからやや上昇傾向である。睡眠もやや改善し、健康管理を意識することで、食事の良い方向に向かったものと考えられる。「心身の健康」や「生活環境」面についてはほぼ近似直線は平らで大きな変化がみられてはいない。

④図4. ケース85では、近似直線はほぼ平らかで、大きな変化はみられていない。強いて考察すると、近似直線が下降している。疲れが後半に目立つことから、疲れの原因についてサポートすることが求められそうである。

⑤図5. ケース86は、全般的に近似直線が右

上がりになっている。とくに「生活環境」のなかのサポーターにおいてのみ平坦な状況である。このケースにおいては、サポーターの存在が重要な役割を果たしているものと推察される。

⑥図6. ケース88は、「心身の健康」における痛みが低値を示しているのが特徴である。「生活環境」において、サポーターの存在が大きな役割を果たした結果、顕著な低下が抑えられた可能性がある。「日常生活」における睡眠が近似直線において右下がりの傾向にあることから、その原因などのサポートが求められる。

⑦図7. ケース95は、あまり変化がみられない。「心身の健康」において、気持ちが落ち込んでいる時期が続いていることから、生活環境などが無記入であったことも含めると、周囲の環境整備の必要性が感じられる。

⑧図8. ケース111は、3つの大項目ともに、全てにおいて右下がりの傾向にあり、とくに日によってアップダウンが目立つ傾向がある。特に気になるものとして「日常生活」の中で家庭の役割について低い値が続いていることから、日常生活における家庭の役割意識の原因に対する相談・支援の必要性が予見される。

⑨図9. ケース124は、全てにおいて近似直線が下降傾向にある。しかし、全ての項目において高い値であり、ときどきの低値はあるが自身で乗り越えている様子もうかがえる。とくに気になる項目として「心身の健康」指標である気持ちの低値が続いていることから、その原因の理解が求められる。

⑩図10. ケース143は、1か月間の毎日の記録がなされていたデータで、ほぼ準備したすべての項目について日々記入されたデータである。「日常生活」では、家庭での役割以外はやや右上がりの傾向にある。その中で注目は、「生活環境」である。周りの状況の要素である家庭理解や友人知人の理解が他の項目に比較して全体的に日々低値であり、家庭と自身の関係性の問題点が感じられる。

E. 結論

本アプリの試用者は心身の状態の変動が大きい方を対象としており、可視化された結果を、障害者本人と支援者が協働で活用していくスキルが求められる。入力項目の妥当性、一定期間の行動・心身・環境の変化を障害者本人と支援者が共に確認し、本人や環境の調整など、支援にフィードバックするプロセスが重要であり、そこにこそ、アプリを活用しながら人が人を支援していく意味が込められていると考える。

F. 健康危険情報 なし

G. 研究発表 1. 論文発表 なし

2. 学会発表 なし

e

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

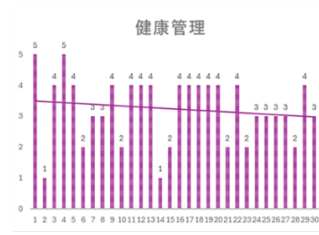
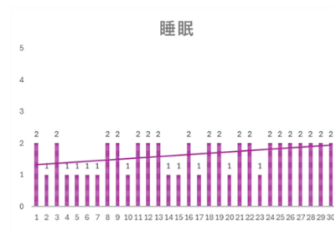
1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

表1. アプリ入力項目

日常生活	日々の行動	個人の生活	食事	食事はとれている
			睡眠	睡眠は足りている
			スケジュール	一日のスケジュールは決まっている
			清潔や身だしなみ	清潔や身だしなみに気を付けている
			健康管理	健康管理はできている（服薬や医師の指示）
			金銭管理	金銭管理はできている
		家庭生活	家庭生活	家庭での役割はできている
		就労生活	通所や通勤などの移動	通所や通勤などの移動に問題はない
			周りの人とのコミュニケーション	周りの人とのコミュニケーションに問題はない
			仕事のルールや連絡	仕事のルールや連絡を守っている
			作業	作業は問題なくできる
		余暇	休みの日	休みの日に気張らしや運動ができている
心身の健康	気持ちや身体の状態	気持・意欲	気持ちの落ち着き	気持ちは落ち着いている
			集中力や意欲	作業や研修に集中できる
			モチベーション	作業や研修を頑張ろうと思う
		身体症状や動き・感覚	痛み	痛みはない
			疲れ	1日の仕事ができる体力がある（ひどい疲れはない）
			落ち着き	病気が落ち着いている
			動きや感覚	動きや感覚の制限はない
生活環境	周りの状況	家庭の環境	家族の理解や協力	家族とうまくいっている
		友人や地域社会との関係	服薬	作業中に服薬できる時間がある（定時や頓服）
			周りの雰囲気	相談出来る機会や雰囲気がある
			仕事の内容や負担	作業の内容や負担で困ることはない
			作業の開始や終了の時刻	作業の開始や終了の時刻は自分に合っている
			装具・機器や家具	装具・機器や家具は作業しやすい
			作業の時間や休憩	必要な休憩の配慮がある（時間や場所）
		社会環境	友人や地域・社会との関係	友人や知人は自分を理解している
			サポーター	サポートしてくれる人がいる

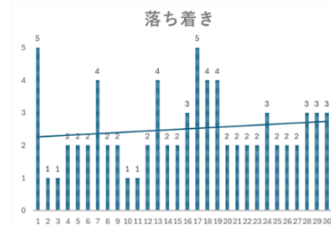
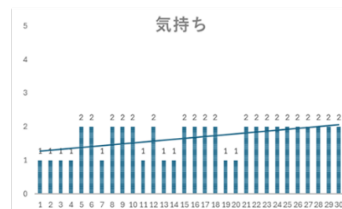
CASE:71

<日々の行動>



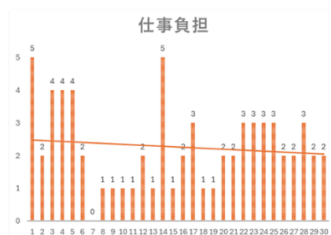
良い
悪い

<気持ちや身体>



良い
悪い

<周りの状況>

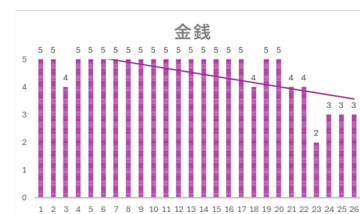
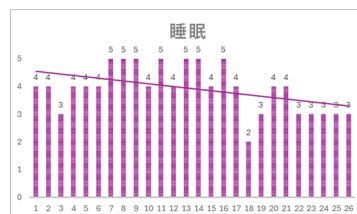


良い
悪い

図1 ケース 71

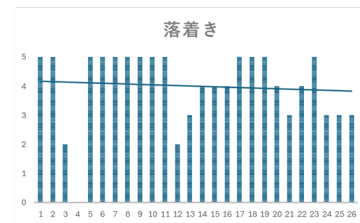
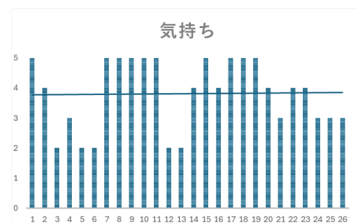
CASE:81

<日々の行動>



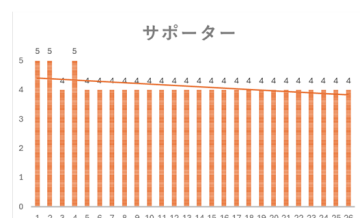
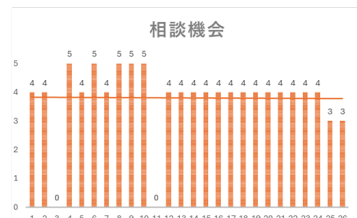
良い
悪い

<気持ちや身体>



良い
悪い

<周りの状況>



良い
悪い

図2. ケース 81

CASE:83

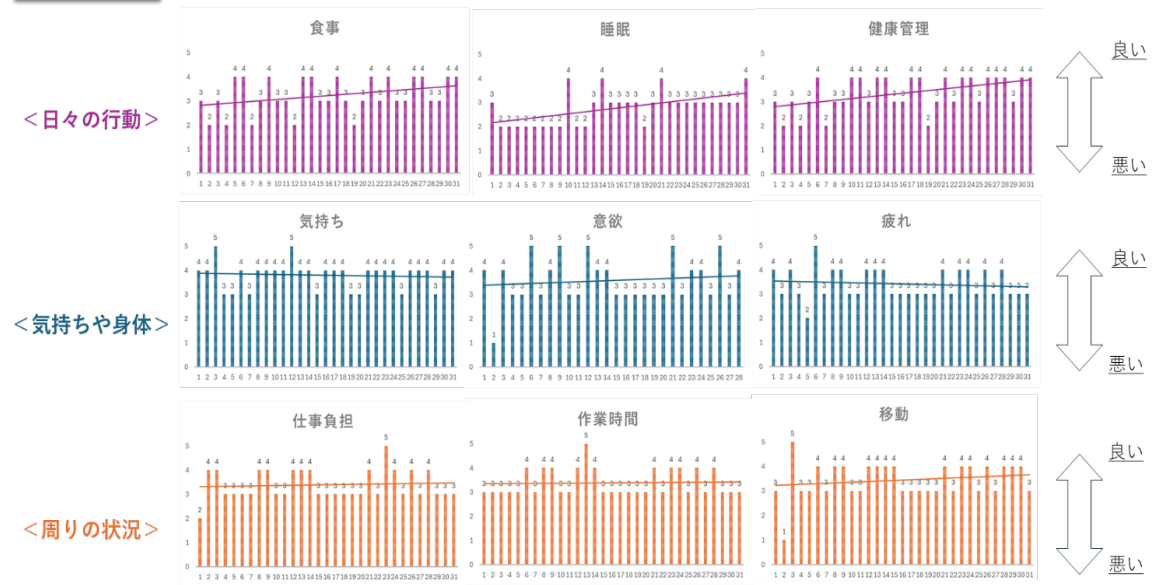


図 3. ケース 83

CASE:85

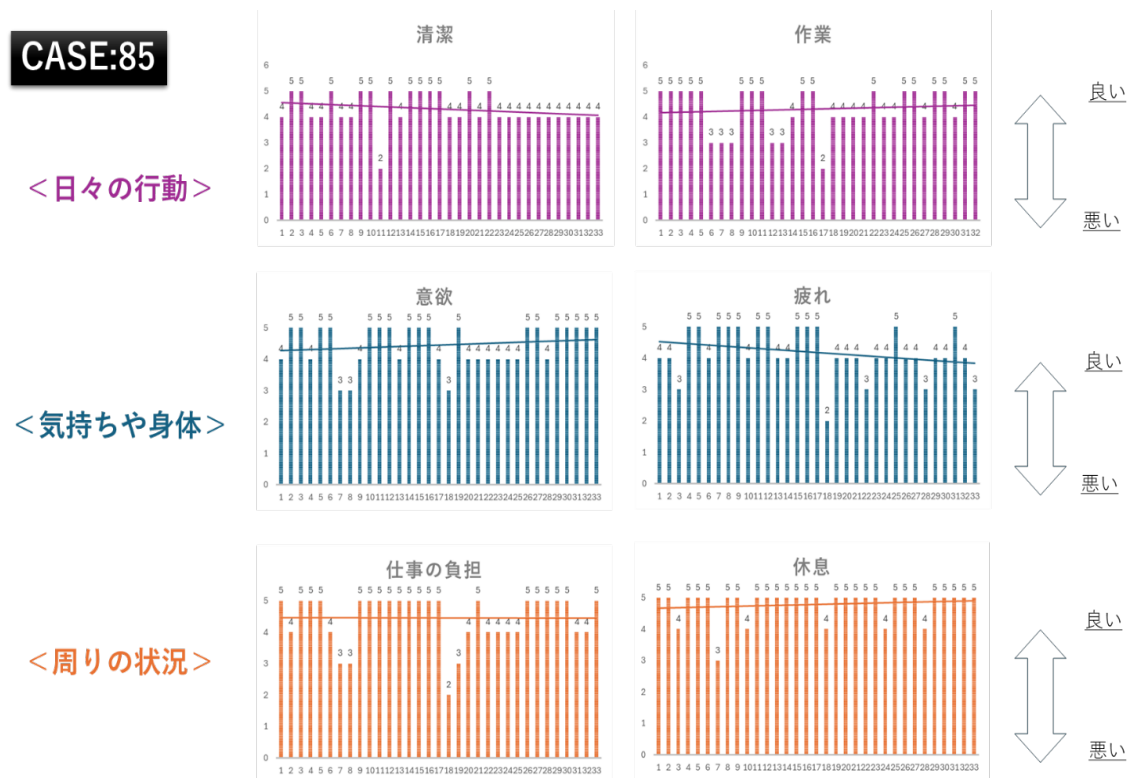


図 4. ケース 85

CASE:86

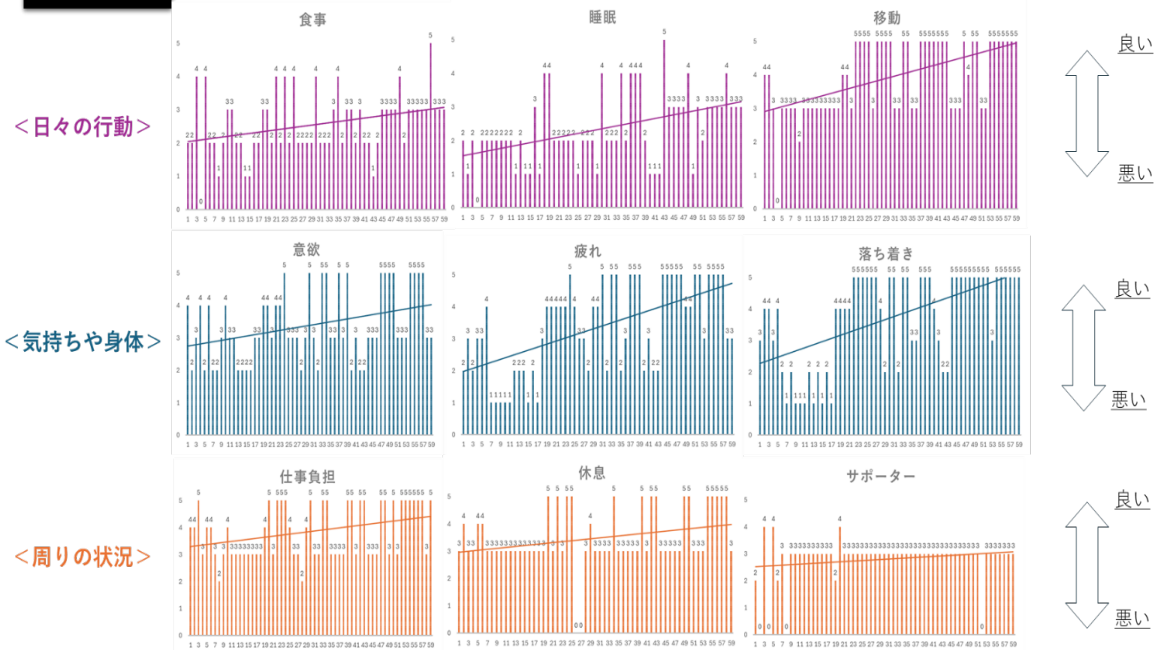


図5. ケース 86

CASE:88

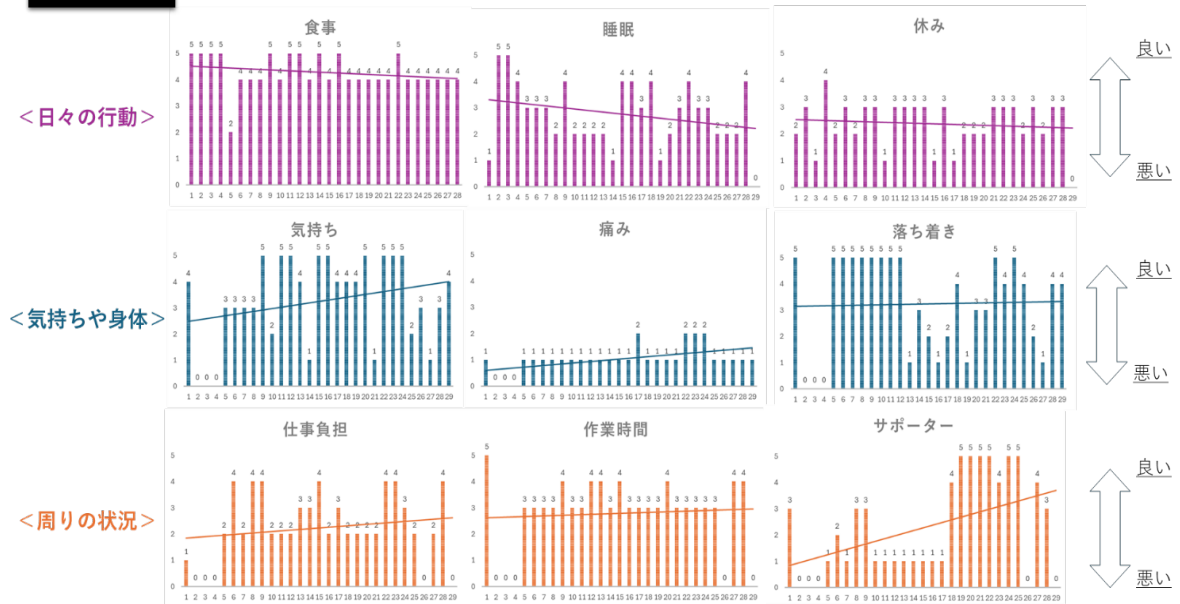
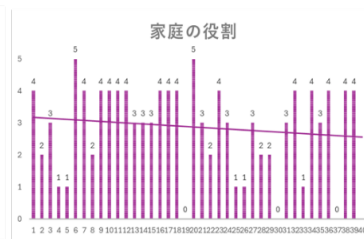
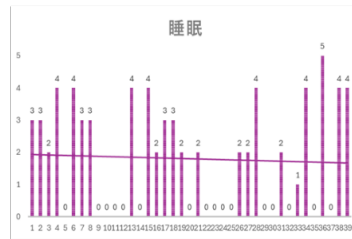


図6. ケース 88

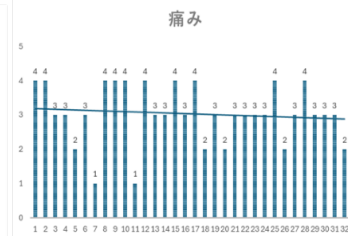
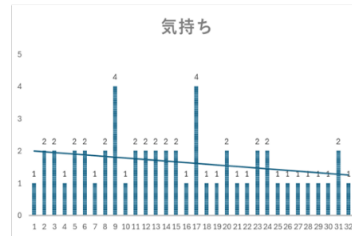
CASE:95

<日々の行動>



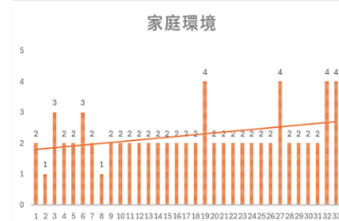
良い
悪い

<気持ちや身体>



良い
悪い

<周りの状況>

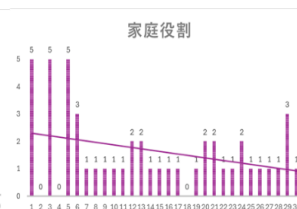
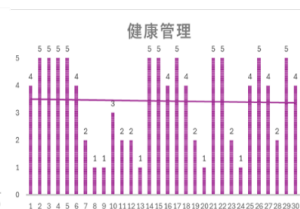
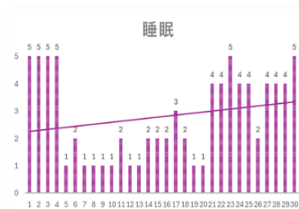


良い
悪い

図7. ケース 95

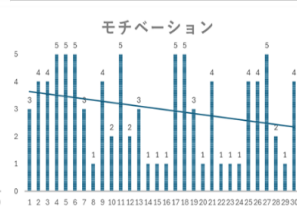
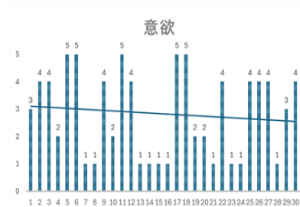
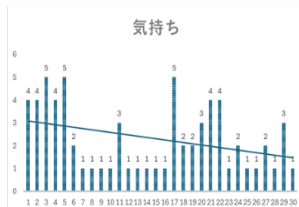
CASE:111

<日々の行動>



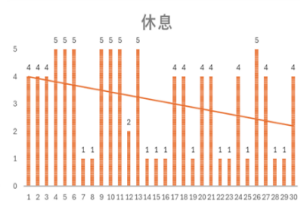
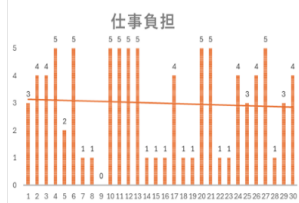
良い
悪い

<気持ちや身体>



良い
悪い

<周りの状況>

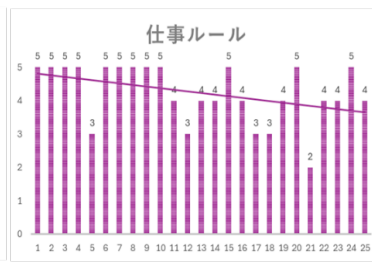
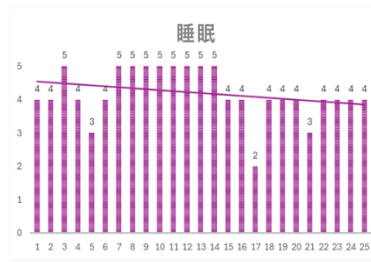


良い
悪い

図8. ケース 111

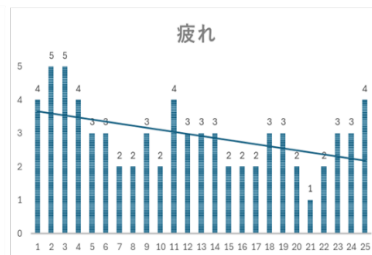
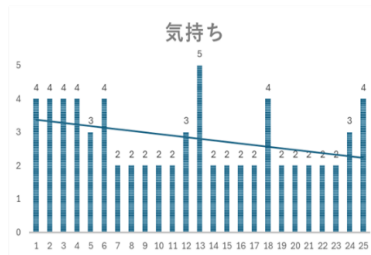
CASE:124

<日々の行動>



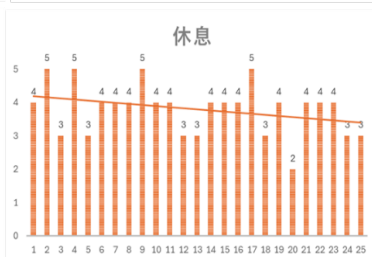
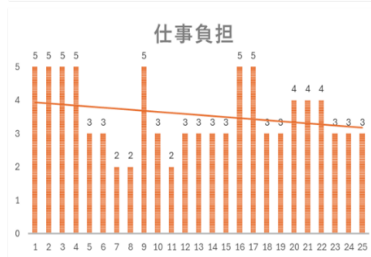
良い
悪い

<気持ちや身体>



良い
悪い

<周りの状況>

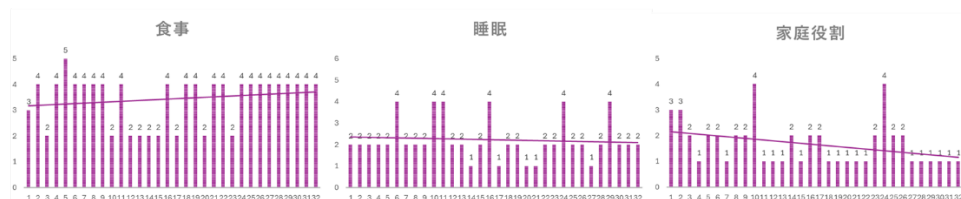


良い
悪い

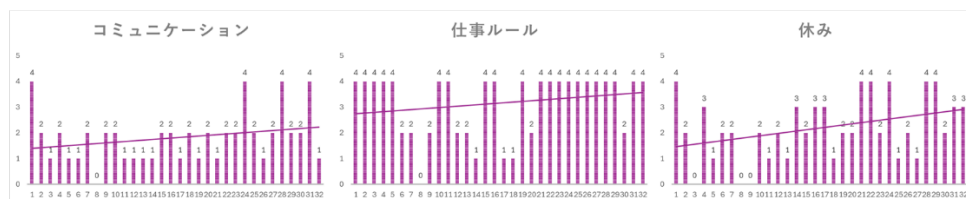
図9. ケース 124

CASE:143-1

<日々の行動>



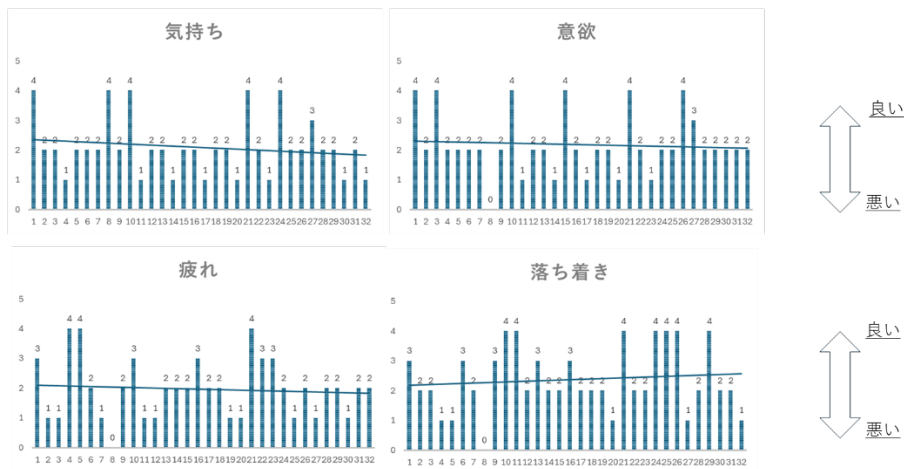
良い
悪い



良い
悪い

CASE:143-2

<気持ちや身体>



CASE:143-3

<周りの状況>

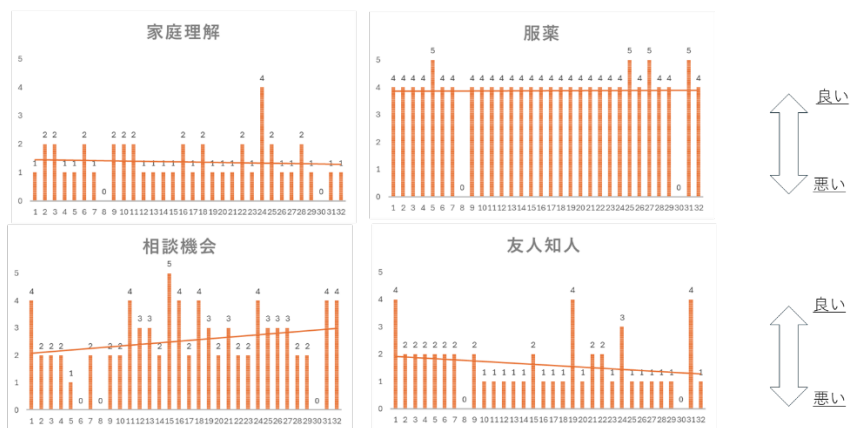


図 10. ケース 143